

## 平成30年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

— 一番茶の荒茶生産量は前年産に比べ12%増加 —

### 【調査結果】

#### 1 摘採面積

主産県の摘採面積（注1）は2万7,800haで、前年産に比べ400ha（1%）減少した。

#### 2 10a当たり生葉収量

主産県の10a当たり生葉収量は472kgで、前年産に比べ14%上回った。これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したためである。

#### 3 生葉収穫量及び荒茶生産量

主産県の生葉収穫量は13万1,200t、荒茶（注2）生産量は2万6,200tで、前年産に比べそれぞれ1万4,400t（12%）、2,800t（12%）増加した。

図1 一番茶の摘採面積、10a当たり生葉収量及び荒茶生産量の推移（主産県）

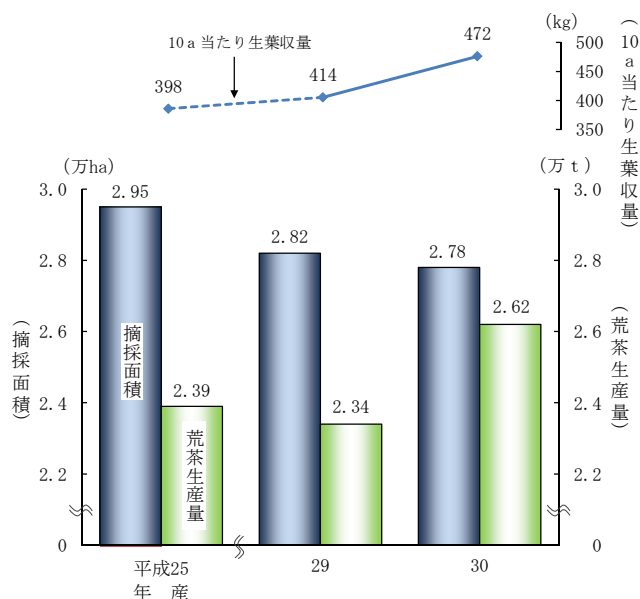
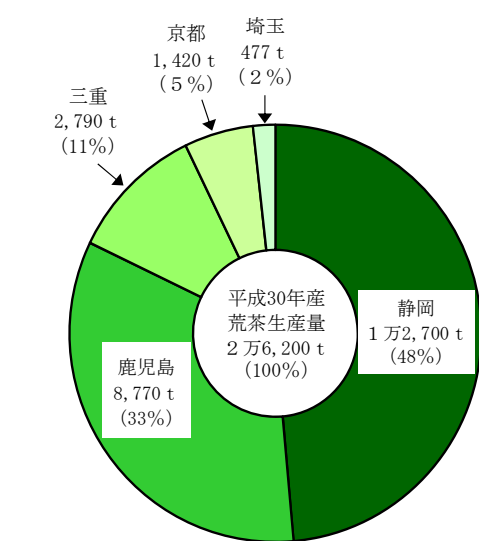


図2 平成30年産一番茶の府県別荒茶生産量及び割合（主産県）



注： 数値については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

- 注： 1 「摘採面積」とは、茶を栽培している面積のうち、収穫を目的として茶葉の摘取りが行われた面積をいう。  
 2 「荒茶」とは、茶葉（生葉）を蒸熱、揉み操作、乾燥等の加工処理を行い製造したもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいう。  
 3 本調査は主産県を対象に実施しており、主産県とは直近の全国調査年（平成26年産）の一番茶期の生葉収穫量の多い上位3県（静岡県、鹿児島県及び三重県）に加えて、茶の畑作物共済事業を実施し半相殺方式を採用する2府県（埼玉県及び京都府）である。  
 4 平成30年産から主産県の対象が6府県から5府県に変更となったことから、前年産対比及び累年データについても5府県を対象に算出した数値を掲載している。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 [http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y15](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y15) 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 茶に関する生産振興に資する各種事業（強い農業づくり交付金等）の推進のための資料
- ・ 農業保険法（昭和 22 年法律第 185 号）に基づく畑作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

一番茶の摘採面積、10 a 当たり生葉収量、生葉収穫量  
及び荒茶生産量の推移（主産県）

区 分	摘採面積	10 a 当たり 生葉収量	生 葉 収穫量	荒 茶 生産量
	ha	kg	t	t
平成21年産	31,300	450	140,700	29,000
22	30,600	425	130,100	26,700
23	30,500	429	130,900	26,900
24	30,300	491	148,800	30,400
25	29,500	398	117,300	23,900
26	29,500	432	127,300	25,800
27	29,200	428	125,000	25,400
28	28,600	430	122,900	24,500
29	28,200	414	116,800	23,400
30（概数）	27,800	472	131,200	26,200

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：累年データは、平成 30 年産における主産県（埼玉県、静岡県、三重県、京都府及び鹿児島県）5 府県を対象に集計したものである。

◎ 関連データ

普通せん茶の荒茶平均価格の推移

単位：円/kg

区 分	荒茶平均価格	
	普通せん茶	一番茶
平成25年産	1,365	2,188
26	1,373	2,199
27	1,302	1,994
28	1,419	2,129
29	1,476	2,255

資料：全国茶生産団体連合会『茶生産流通実態調査事業』

【統計表】

平成30年産一番茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量  
及び荒茶生産量（主産県）

府 県	摘採面積	10 a 当たり 生葉収量	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量	前 年 産 対 比			
					摘採面積	10 a 当たり 生葉収量	生 葉 収 穫 量	荒 茶 生 産 量
	ha	kg	t	t	%	%	%	%
主産県計	27,800	472	131,200	26,200	99	114	112	112
埼 玉	602	369	2,220	477	98	104	102	104
静 岡	15,100	407	61,400	12,700	97	119	115	115
三 重	2,690	524	14,100	2,790	99	111	109	109
京 都	1,400	496	6,940	1,420	99	98	97	97
鹿 児 島	7,990	582	46,500	8,770	101	112	113	111

注：主産県計は、主産県5府県の集計値であり、前年産対比も同じ5府県を対象に算出したものである。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の収穫量調査として実施したものであり、茶の生産に関する実態を明らかにすることにより、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料、茶に関する生産振興に資する各種事業（強い農業づくり交付金等）の推進のための資料及び農業保険法（昭和 22 年法律第 185 号）に基づく畑作物共済事業の適切な運営等のための基礎資料を整備することを目的としている。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査の範囲

平成 30 年産については、主産県を調査の対象としている。

直近の全国調査年（平成 26 年産）の一番茶期の生葉収穫量の多い上位 3 県（静岡県、鹿児島県及び三重県）に加えて、茶の畑作物共済事業を実施し半相殺方式を採用している 2 府県（埼玉県及び京都府）を調査対象（主産県）としている。

#### (2) 調査対象者（標本荒茶工場）の選定

荒茶工場については、荒茶生産量規模別の分布状況に応じて全数調査階層と標本調査階層に区分し、全数調査階層は全数、標本調査階層は無作為に抽出した。

#### (3) 調査対象者数

母集団 荒茶工場数 ①	調査対象者数 ②	抽出率 ③=②/①	有効 回収数 ④	有効 回収率 ⑤
工場 3,290	工場 498	% 15.1	工場 369	% 74.1

注：「有効回収数」とは、集計に用いた標本荒茶工場の数であり、回収はされたが、当年産において取扱いがなかった荒茶工場は含まない。

### 3 調査事項

摘採面積、生葉集荷（処理）量及び荒茶生産量

### 4 調査期日

一番茶の収穫期（全国の標準的な時期は、3月10日～5月31日）

### 5 調査方法

標本荒茶工場に対する往復郵送調査又はオンライン調査により行った。

### 6 集計方法

標本荒茶工場調査結果を基に、必要に応じて職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

### 7 実績精度

本年産調査における荒茶生産量に係る調査結果（主産県）についての実績精度を標準誤差率（標準誤差の推定値÷推定値×100）により示すと、2.6%である。

## 8 用語の解説

- (1) 「摘採面積」とは、茶を栽培している面積のうち、収穫を目的として茶葉の摘取りが行われた面積をいう。
- (2) 「荒茶」とは、茶葉（生葉）を蒸熱、揉み操作、乾燥等の加工処理を行い製造したもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいう。

## 9 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- (2) この資料に記載された数値を他に転記する場合は、「平成30年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）」（農林水産省）による旨を記載してください。

## 10 その他

この資料の数値は、概数値である。二番茶以降を含めた年間の荒茶生産量（概数）等については、「平成30年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量」として平成31年2月に公表予定であり、確定した詳細な数値はホームページに掲載（同年6月予定）するとともに、その後刊行する『平成30年産作物統計』に掲載する。なお、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

## 【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「工芸農作物（さとうきび・茶など）」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 [http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y15](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y15) 】

## 【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞大臣官房

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞生産局

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

### お問合せ先

#### ◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線 3682

（直通）03-3502-5687

FAX： 03-5511-8771

#### ◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 広報普及班

電話：（代表）03-3502-8111 内線 3589

（直通）03-6744-2037

FAX： 03-3501-9644



### 政府統計

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>



平成30年11月1日現在で、水産業を営んでいる方などを対象に、2018年漁業センサスを実施します。

（流通加工調査については平成31年1月1日現在）

調査票が届きましたら、記入の御協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。